

学校教育の方針 市教育委員会	市学校教育の重点	学校教育目標	資質・能力 育てたい	目指す児童像	学校の重点	市の重点との関連	指導の柱	具体的な実践内容・観点	評価 A S D	分析と改善点
志を語り合い、しなやかに挑み続ける飛騨びとを育む	①②③ 主家庭的・地域対話的・人対話的・学校協働による学びの具現による特色ある推進教育の推進	心豊かにたくましく 未来を切り拓く	未来を切り拓く力	「「「自分なから」」進願いや考えをもち工夫する【目的意識】」	考えをつなぎ、学びの状況を自覚する児童の育成	①	飛騨市が目指す「学び」づくりの具現	・期ごと（1～4期）に重点目標を定め、児童の目指す姿と手立てを明確にする。	A	○市指定公表会を検証の場として位置付け、教科部会を主体的に行ってきたことで、職員一人一人が授業改善に専念でき、それが児童の「主体的・対話的で深い学び」の育成につながった。 ▲学びの状況の自覚という点では道半ばであるので、研究については今後も継続して取り組む必要がある。 →振り返りの目的を明確にし、教科や単元ごとに方法を検証する。 →家庭においてもICTを活用した効果的な学習を行い、学習内容の定着と自主学習の定着を図る。
							ICT機器を効果的に活用した授業の工夫改善	・「考えをつなぐ」姿の具体を共有し、授業改善に取り組む。	B	
							校内研究の充実 (R5, 6市指定公表会)	・学びの状況を自覚できる「振り返り」の方法を考え、実践する。	B	
								・目的に応じたICTの活用方法を考え、効果的な実践を全職員で共有する。	B	
								・職員のニーズに応じた研修の工夫と定期的なミニ研修を行う。	B	
								・研究の視点に沿った拡大研推（3回）と研究構想図・指導案を作成する。	A	
					ふるさとに誇りをもち自他の尊重を大切にしている児童の育成	③	「古川やんちゃ学」のカリキュラムの整備と充実、FA（ふるさとアドバイザー）との協働	・学校とFA（ふるさとアドバイザー）の願いを共有し、持続可能な総合カリキュラムを作成する。	B	
						・「古川やんちゃ学」と「教科学習」をつないだ課題解決型の学習づくりを行う。	B			
						・「ぎふ いのちの教育」をもとに、活動の目的や価値を見直す。	B			
						・各学年、各教科の横断的な防災教育計画を作成する。	A			
					自分らしさを自覚し行動できる児童の育成	②	児童や保護者が早期に相談できる教育相談体制の充実 ※関係機関との連携強化	・児童の様子や保護者からの連絡について、報告・連絡・相談を確実に行う。	B	
						・学校OTやSC、保育所等訪問と連携し、早期支援に努める。	A			
	・校内教育支援センターを設置し、個別最適な活動と居場所をつくる。	A								
	・支援員やスタサポ、関係機関と連携し、保護者とともに支援する。	B								
	・児童会が中心となり、よさや持ち味を発揮できる場や機会をつくる。	B								
	・終わりの会の「よいところ見つけ」や昼の放送「ええところ」を継続して行う。	A								

<p>学校運営協議会における主な協議内容</p>	<p>○運動会や学校創立150周年記念式典、授業参観などから、子どもたちが生き生きと明るく楽しい学校生活を送っていることが分かる。 ○学校創立150周年記念式典の風船飛ばしの計画では、タブレットを用いて説明する姿を見て、自分で作戦を考えて自分でやろうとする子が育っている。 「自分から」「自分なら」「みんなと」が定着していると感じる。 ○「古小ライブ」でやりたいことや得意なことを発揮する場をつくることが日常に生かされている。 ○仲間の多様性を認められる子が多く、心の温かさや豊かさを感じる。 ・登下校のあいさつは低学年の方が元気。高学年になってもその姿が続くとよい。 ・マイナスの数値ばかりにとらわれず、先生方には学校長の経営方針に基づいて指導、研鑽を続けてほしい。学校運営協議会はそれを支え、後押しする存在でありたい。</p>
--------------------------	---